

第169回 原医研セミナーのご案内

下記のとおりセミナーを開催いたします。多数ご参集ください。

記

日 時：平成27年7月16日（木）午後4時～

場 所：霞総合研究棟 7階 701セミナー室

1. 演 題：ALS 原因遺伝子 optineurin の機能解析

演 者：分子疫学研究分野 大澤 亮介 助教

筋萎縮性側索硬化症（ALS; amyotrophic lateral sclerosis）は中枢神経の運動ニューロンが脱落していき、発症後平均して3-5年で命を落とす進行性の致死性疾患である。そのうち10%ほどを家族性によるものが占め、そのうちの2割ほどがSOD1変異によるものであるが、それ以外の原因遺伝子は長い間不明であった。当研究室では2010年にhomozygosity mapping法を用い家族性ALSの家系において共通するゲノム領域を絞り込むことでoptineurin(OPTN)を原因遺伝子として同定した。optineurinは種々の生理学的現象に関わるmulti-functional proteinと考えられている。現在当研究グループはoptineurinの変異がどのようにして神経変性につながるのかを明らかにする為に研究を行っている。本セミナーではこれまでに得られた知見を紹介する。

2. 演 題：TAK1 シグナル伝達経路の制御機構とその生体における役割の研究

演 者：附属放射線先端医学実験施設
動物実験系 稲垣 舞子 助教

TAK1(TGF- β Activated Kinase 1)はMAPトリプルキナーゼの一員であり、TGF- β をはじめとするサイトカインやストレスなどの様々な刺激によって活性化される。また、TAK1の下流ではMAPキナーゼカスケードだけではなく、さまざまなシグナル伝達経路が活性化されることが明らかになっている。TAK1ノックアウトマウス等を用いた研究により、このTAK1シグナル伝達経路は個体の初期発生において重要な役割を果たしていることが明らかになっている。本発表では、これらの研究成果について報告する。

連絡先： 広島大学霞地区運営支援部総務グループ 082-257-1639（内線 霞6279）